

## 北海道統括支店 道央地域より新年のご挨拶

新年明けましておめでとう御座います。

旧年中は、弊社の飼料作物種子並びに配合製品につきまして、格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、4月の口蹄疫発生・乳価値下げ・枝肉価格の長期低迷等により、酪農畜産経営には厳しい環境下となり、対応に苦慮した1年となりました。

全道的にも、夏季の猛暑長期化・突発的集中豪雨等に伴い、主要農作物の生産に大きく影響し、畑作物では品質低下や減収となり、畜産物生産においても質と量・繁殖成績等に大きく影響する年となりました。

道北地区では、夏季の降雨長期化と集中豪雨が重なり、草地の多くが冠水し新播の草地では蒔き直しが必要となる状況となっています。

近年の天候不順は、自給飼料生産で重要な位置を占めるトウモロコシで、収穫期に入っの病気が多発傾向に有り、今後は耐抵抗性品種や複数品種の作付けによる危険分散が大切です。

また、牧草を中心とした酪農畜産での自給飼料生産は、収量以上に品質劣化や栄養価の低下が危惧される状況で、採食性や栄養の低下がもたらす影響に注視し、十分な対策を準備する事が大切となります。

一方、昨年は配合飼料の大幅な価格改定は無く経過しましたが、酪農経営では乳価の値下げ・肉牛経営に

おいては消費減退による枝肉価格の低位長期化により、所得が減少する環境下となり、改めて足腰の強い経営基盤の構築が大切と考えます。

今年1月より、配合飼料価格が値上げされます、今回の値上げは原油価格の上昇・エタノール需要の増加・トウモロコシの期末在庫大幅減少等が主要因で、主原料のトウモロコシや大豆は現在も値上がりの基調が続いており、今後も動向に注視が必要です。

当社は、平成20年春より道央地域の各拠点（道央、八雲、旭川、豊富）において、自給飼料の増産・品質向上への取組みとして、簡易更新機を活用した草地の現地実証を開始し、皆様から自給飼料の安定的確保に一定の評価を頂く事が出来ました。

今年も、自給飼料生産の重要性と必要性を再度認識いただけるよう、可能な限り現地での実践を進めたいと考えておりますので、ご興味をお持ちの方はお近くの拠点にご相談頂ければ幸いです。

今年も、所員一同酪農畜産経営の安定化に寄与すべく、生産現場での自給飼料増産と品質改善に向け、取組みを継続して参りますので宜しくお願い申し上げます。

北海道統括支店 道央地域担当  
副統括支店長 篠原 忠利

